

雑誌「森林遺伝育種」について

森林遺伝育種編集委員長 戸丸 信弘^{*1}

雑誌「森林遺伝育種」の編集委員長を務めさせていただくことになりました戸丸信弘です。私は前身誌である「林木の育種」の編集委員を2006年から務めてきましたが、その「林木育種」では、林木育種の実践に関する研究や技術、活動、加えてその基礎となる森林遺伝など関連する研究が紹介されてきました。また、林業経営や森林保全など関連する分野の動向も幅広く紹介されました。このような記事の掲載を通して、林木の育種や遺伝に関わる研究者や技術者、さらには林業経営や森林保全に直接関わる方々などに貴重な情報交換の場を提供し、研究や業務の発展に少なからず貢献してきたと考えられます。したがって、「森林遺伝育種」でも、この「林木の育種」の基本スタイルを踏襲し、これからも幅広い情報を掲載して会員の皆様にお届けしたいと思います。私は、このことが「森林遺伝育種」を編集する上で、最も大切なことと考えています。加えて、「森林遺伝育種」は学術団体「森林遺伝育種学会」の雑誌であるため、審査のある原著論文や総説の掲載にも力を注いでいきたいと考えています。

「森林遺伝育種」の中身を具体的に紹介しましょう。記事は論文、総説、解説、話題、意見、その他に分類されます。

論文と総説：他の学術雑誌と同様に原著論文や総説を掲載していきます。厳正な審査にもとづき掲載の可否を判断します。近年、雑誌が増加し、林木育種や森林遺伝の分野でも、投稿先の選択肢が広がっていますが、会員の皆様には、投稿先の1つとして「森林遺伝育種」を加えていただきますようお願いいたします。

解説：新規のあるいは既存の概念、理論、手法、知見が平易な文章で解説されます。会員にとって特に有益と思われるものはシリーズや講座として連載していきます。また、国際誌に公表された論文の解説や博士論文の紹介なども掲載していきます。

話題：さまざまな研究や事業への取り組み、その他の活動などを紹介していきます。たとえば、個々の研究プロジェクト、海外における林木育種事情や森林遺伝研究

の状況、行政の動向、国際学会などを取り上げます。

意見：始めて加えられたものです。森林に係わる遺伝や育種の研究、事業、教育などをよりよいものにするため、会員からの意見（主張、提案、期待など）を掲載し、議論の場としたいと思います。会員の皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

その他：学会記事や各種資料などを掲載していきます。

「森林遺伝育種」は年4回（4つの号）、1月、4月、7月、10月にウェブ上で配信し、それらをまとめて12月に冊子体（1巻）として発行する予定です。現在の編集委員会メンバーは、編集委員（7名）の石井克明（森林総合研究所森林バイオ研究センター）、来田和人（北海道立総合研究機構林業試験場）、斎藤真己（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）、藤澤義武（森林総合研究所林木育種センター）、松本麻子（森林総合研究所）、向井譲（岐阜大学応用生物科学部）、森康浩（福岡県森林林業技術センター）、編集主事の井城泰一（森林総合研究所林木育種センター）（以上、敬称略）、および編集委員長の戸丸信弘（名古屋大学大学院生命農学研究科）であり、鋭意、編集に努めております。

「森林遺伝育種」は会員のための雑誌であり、会員の皆様とともに創っていく雑誌と考えています。したがって、編集に関してご意見などございましたら遠慮なくお知らせください。また、論文、総説、意見など活発なご投稿を心よりお待ちしておりますとともに、執筆が依頼された場合にはどうかご協力をお願いいたします。

* E-mail: tomaru@agr.nagoya-u.ac.jp

¹ とまる のぶひろ 名古屋大学大学院生命農学研究科